

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名： **地域総合研究センター**

部局長名： **三村 聡**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p>	<p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>①令和3年度は、新4学期制とコロナ災禍対策を念頭に置き、実践型社会連携教育プログラム、とりわけ教養科目における整備をSDGs事業に結びつけるために、主担当となった全学教育・学生支援機構を支援しつつ、これまでの実績を活かし、SDGs推進を視座において社会連携教育をセンターレベルで推進したい。 ②FD研修を踏まえた他大学との情報交換活動を含むSDGs推進連携教育科目に関して、全学の担当教員への周知を進める。 ③学生が地域社会で学ぶことにより、実践力の向上と生きる力を身に着けることを目指し新型コロナ災禍の影響をうけながらもオンラインを有効活用した新たなスタイルのインターンシップ型の教育プログラムの開発に取り組む。</p>	<p>目標に関連する年度計画の番号 2-2 46-2 20-1</p> <p>(1)2021(令和3)年度の授業L-caféと連携して留学生が日本人学生と共に「日本の伝統文化を学ぶ」では、井原市をメインフィールドとした実践型授業を計画していた。ところが新型コロナウイルス拡大により、現地でのプログラムを断念せざるを得ない事態となり、オンラインで実施した。教員2名は大学から、そして井原市は担当職員が市へ出勤、さらに井原市大舌敷市長は自宅から参加、学生たちも自宅からの参加で実施した。オンライン授業では、藤本准教授の進行により、まず、井原市建設経済部観光交流課の藤岡健二課長補佐の解説により、井原市の映像を交えながら、現地視察予定であったポイントを写真や資料を使い講義形式で実施した。そして地域の魅力紹介にあわせて地方創生の課題について言及頂いた。授業の後段では、事前に井原市のチョイスで取り寄せた特産品や土産物を開封、味わいながら、学生たちが味を評価した。留学生の率直な意見や感想に、都度、大舌市長がコメントするなど、意見交換が続いた。こうした新たな実践型社会連携授業の開発に取り組んだ。 (2)9月集中講義「倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境」では、水島商店街やみずしま財団と連携して、中心市街地の活性化について学び、まちづくりの提案を行った。対面と音欄ラインによるハイブリッド開催を行ったが、岡山大学だけではなく、新潟大学や熊本大学からの受講生もあり、担当教官は、タウンミーティングを準備した。地域課題を対話を通じて明らかにした。</p>
<p>②研究領域</p>	<p>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>①今年度は地域総合研究センター創設10周年を迎えるため、これまでの学都研究の成果を集大成して取りまとめる作業を行い、その成果を報告書として記録化する。②地域におけるSDGs活動を学内と地域双方から情報を収集、調査研究成果や活動情報を展示するスペースを新設して、岡山大学の地域におけるSDGs活動を示す拠点の整備を行う。③地域連携や産学共創をテーマに「岡山由来」をキーワードとした地域創生研究を継続する。</p>	<p>目標に関連する年度計画の番号 46-1</p> <p>①今年度は地域総合研究センター創設10周年を迎えこれまでの学都研究の成果を集大成してその成果を報告書として記録化した。 ②また、地域におけるSDGs活動を学内と地域双方から情報を収集、調査研究成果や活動情報を展示するスペースを新設して、岡山大学の地域におけるSDGs活動を示す拠点の整備を行った。 ③地域連携や産学共創をテーマに「岡山由来」をキーワードとした地域創生研究として、水島環境学習コンソーシアム活動の一環として倉敷市やみずしま財団と連携して水島コンビナート企業を対象として「SDGs活動への取組状況調査」を実施した。20社を超える企業から回答を得ている。 ④地域総合研究センターによる地域貢献をまとめたものとして岩淵教員は「岡山まちづくり探検」(吉備人出版)を出版した。岡山県各地の市民活動事例を整理し、地方創生からSDGsへ進む岡山のまちづくりを整理した。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>①自治体、経済界との連携による地域課題の解決に向けた活動展開を予定している。一例では、SDGsで第7次倉敷市総合計画や、岡山商工会議所の提言書(未来ビジョン)に岡山大学の取り組みが反映されたことを受け、今年度は、関係部局、教員とも連携を図りつつ、更なる成果の見える化を目指す。 ②矢掛町、井原市、瀬戸内市など、新型コロナ災禍の影響(学生や地域へのリスクコントロール)を踏まえつつ、地域社会との連携による学生たちのSDGsを念頭に置いた地域活動への参画を継続するなかで研究活動を継続する。 ③SDGs達成に向けた取組の中で、地域課題解決に向けて、西日本豪雨災害からの復興をテーマに工学部との連携による地区防災計画の策定支援(シンクタンク機能)の実施を今年度も引き続き継続していく。</p>	<p>目標に関連する年度計画の番号 46-1</p> <p>①自治体、経済界との連携による地域課題の解決に向けた活動を展開した。たとえば、SDGsで第2期井原市創生総合戦略や総合計画の支援を実施した。また、岡山商工会議所と連携しながら岡山市への新たな拠点創出事業計画の策定支援を展開した。地域連携の更なる深化を図りつつ、具体的な成果の見える化を目指した。奈義町SDGs円卓会議の開催の支援も行った。 ②矢掛町、井原市、瀬戸内市など、新型コロナ災禍の影響(学生や地域へのリスクコントロール)を踏まえつつ、地域社会との連携による学生たちのSDGsを念頭に置いた地域活動への参画を継続するなかで地域研究活動を継続できた。たとえば、矢掛町とは年間を通じたまちづくり交流が行われ、昨年度に続き、生活困窮の学生たちに対し、岡山大学へ支援米が届けられた。 ③SDGs達成に向けた取組の中で、地域課題解決に向けて、西日本豪雨災害からの復興をテーマに工学部との連携による地区防災計画の策定や倉敷市災害復興公園の審査などシンクタンク機能の発揮をすることができた。</p>
<p>⑤センター・機構等業務</p>	<p>センター・機構等業務における目標の達成状況</p>
<p>①地域総合研究センターの効率的な運営を行い、センター業務の円滑な推進を図る。 ②地域総合研究センター教員会議等を通じ、全学ビジョン等の共有を図り、センター業務を遂行する。 ③センター職員の評価方法の効率的かつ効果的な仕組みを構築する。</p>	<p>目標に関連する年度計画の番号 68</p> <p>①地域総合研究センターの効率的な運営を行い、新型コロナ災禍を踏まえつつ、センター業務の円滑な推進を図ることに鋭意つとめた。 ②地域総合研究センター教員会議等を通じ、全学ビジョン等の共有を図り、とりわけSDGs大学経営を念頭に置いて、積極的に地域SDGsの推進によるセンター業務の遂行につとめた。 ③少人数ながらセンター職員の評価方法の効率的かつ効果的な仕組みを構築した。</p>